

卒業論文

論文題目

〇〇年〇〇月〇〇日提出

大阪産業大学経営学部経営学科

土屋佑介ゼミナール

学籍番号 〇〇〇〇

氏名 〇〇〇〇

## 目次

0. 要旨	1
1. 背景	2
2. 先行研究	3
2-1. ○○研究	3
2-2. ○○研究の課題	3
2-3. 研究課題と意義	3
3. 方法	4
4. 結果	5
5. 考察	6
5-1. 主張	6
5-2. 理論的貢献と実践的貢献	6
5-3. 限界と今後の課題	6
引用文献	6

## 0. 要旨

本研究のテーマは、「①」である。このテーマにした理由は、「②」といった問題があるからだ。この問題を解決できないと、「③」というよくないことが起きてしまうかもしれない。

この問題を解決するために、本研究は、「④」という研究に注目した。「④」とは「④の代表的な定義や特徴」(××××, ○○○○, ページ) である。この研究では、「⑤」といったことが分かっている。しかし、本研究が対象とする「⑥」を考えると、「⑦」について十分に説明できていないと考えている。そこで本研究は、「⑧」という研究課題 (RQ) を立てた。このRQを明らかにすることで、上記の「②」という問題の解決につながると考えたからだ。以上のことから「⑨」という仮説を立てた。

そこで「⑥」を対象に、「⑩調査期間」の間に「⑪調査方法 (Google フォームを使ったアンケート調査)」を行った。その結果、「⑬サンプル数」の回答が集まった。使用変数は、「⑭」などである。分析には「⑮使用した統計ソフト名」を用いた。

分析の結果、「⑯」が明らかになった。したがって、仮説「⑨」は(一部)採択or棄却された。

以上の結果から、本研究は、「⑰」が重要であると主張する。この「⑰」という結果については、「④」という研究では十分に説明できていない「⑦」という点を明らかにしている。そのため、理論的に貢献があるといえる。また、「②」という問題や「③」という問題に対して、「⑰」がよくないことを防ぐときに役に立つと考えている。このため、実践的にも貢献があるといえる。しかし、本研究には「⑱」といった限界がある。したがって、今後の研究では、「⑲」を調べていきたい。

## 1. 背景

本研究のテーマは、「①」である。このテーマにした理由は、「②」といった問題があるからだ。この問題を解決できないと、「③」というよくないことが起きてしまうかもしれない。

## 2. 先行研究

### 2-1. ○○研究

この問題を解決するために、本研究は、「④」という研究に注目した。「④」とは「④の代表的な定義や特徴」(xxxx, oooo, ページ) である。

この研究では、「⑤」といったことが分かっている。

### 2-2. ○○研究の課題

しかし、本研究が対象とする「⑥」を考えると、「⑦」について十分に説明できていないと考えている。

### 2-3. 研究課題と意義

そこで本研究は、「⑧」という研究課題 (RQ) を立てた。このRQを明らかにすることで、上記の「②」という問題の解決につながると考えたからだ。以上のことから「⑨」という仮説を立てた。

### 3. 方法

そこで「⑥」を対象に、「⑪調査期間」の間に「⑫調査方法(Google フォームを使ったアンケート調査)」を行った。その結果、「⑬サンプル数」の回答が集まった。使用変数は、「⑭」などである。分析には HAD (清水, 2016) を用いた。

#### 4. 結果

【小宮・布井 (2018) を基に】

以上の分析の結果、「⑩」が明らかになった。したがって、仮説「⑨」は(一部)採択or棄却された。

## **5. 考察**

### **5-1. 主張**

以上の結果から、本研究は、「⑰」が重要であると主張する。

### **5-2. 理論的貢献と実践的貢献**

この「⑰」という結果については、「④」という研究では十分に説明できていない「⑦」という点を明らかにしている。そのため、理論的に貢献があるといえる。また、「②」という問題や「③」という問題に対して、「⑰」がよくないことを防ぐときに役に立つと考えている。このため、実践的にも貢献があるといえる。

### **5-3. 限界と今後の課題**

しかし、本研究には「⑱」といった限界がある。したがって、今後の研究では、「⑲」を調べていきたい。



#### 引用文献

小宮あすか・布井雅人 (2018).『Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける』講談社.

清水裕士 (2016).「フリーの統計分析ソフト HAD: 機能の紹介と統計学習・教育、研究実践における利用方法の提案」『メディア・情報・コミュニケーション研究』1, 59-73.